

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

## 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400017		
法人名	社会福祉法人 西根会		
事業所名	グループホーム ななしぐれ		
所在地	〒028-7404 岩手県八幡平市堀切14地割 10番地 7		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	令和3年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

雄大な岩手山を眺望できる環境下で、「聴きましよう 話しましよう 笑いましよう」の理念に基づき、笑顔の絶えない明るい雰囲気施設の施設です。毎月八幡平市立病院の訪問診療にて直接診察していただき、管理者の看護師と共に健康管理しています。創立10年を超え、近隣の方々も 地域の一員として ななしぐれを考えてくださり 有事の際は、すぐに駆け付けて頂き 良い関係性が保たれています。
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、同一法人運営の小規模多機能ホーム「陽ひだまりの家」と棟続きで、デイサービスセンターとも隣接され、3施設相互に連携と協力をしながら、それぞれの利用者を支援している。職員は、開設当初に職員の考案のもとに作成された理念を基本と捉え、笑顔や会話を大切にしながら、理念に沿った日々の支援となるよう、利用者一人ひとりの意向や今ある力を活かし尊重した支援に努めている。日頃から密に地域との関係性を築き、有事の際には地域住民からの応援協力を得られる体制も整っており、常に繋がりを絶やさないようにしている。管理者の看護師を中心に地元医療機関そして医師とも事業所の状況に応じた連携ができており、終末期に至る対応も、利用者や家族にとって安心感と期待感をもって受け止められている等、地域における存在感のある事業所である。
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えやすい場所に提示。会議などで、理念を唱和し全員で共有。日常生活でも、利用者の笑顔を引き出し、明るい雰囲気になっている。	「聴きましょう・話しましょう・笑いましょう」とする理念は、開設当初に職員が意見を出し合って作られた。職員全員が理念を介護の基本と捉え、継続的な生活の支援など、5つの主要事項や今年度の実施項目を掲げて実践に繋げている。また、年度初めや毎月の職員会議を始めとする話し合いの場を多く設け、サービス計画に反映させるとともに、職員の意見は手作りおやつづくり等に反映されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、昨年度は地区花壇の草取り、水やりは職員だけ参加したが、今年度は利用者も参加した。	地域の一員として、利用者も草取りや手入れなどの花壇活動にも参加している。コロナ禍の中、以前のような地域交流は行えないが、これまで近隣の学校等と敬老会や運動会の交流を行ってきた経緯もあり、今後も継続したいと考えている。運営推進会議のメンバーも含めた近隣住民による災害援助協力隊が組織されており、有事の際の協力・支援等、地域との緊密な関係性ができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、運営推進会議は開催できていない。資料を郵送し 利用者の情報提供している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、運営推進会議は開催できていない。資料を郵送し 利用者の情報提供している。陽だまりの利用者にも運営推進委員になっていただき、直接意見を聞けるようにしている。	コロナ禍で、運営推進会議は書面開催としている。活動報告や利用者情報を資料として提供しているが、今後は、委員の意見や要望をいただき、事業所の気づきとサービスの向上に結びつけ、より一層、運営推進委員の意見反映を図りたいと考えている。さらに、消防・警察との連携を深め、有事の際の対応の円滑・強化を進めていこうと考えている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

## 2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で、生保担当者とは電話でのやり取りが多い。入所判定会議(3か月に1回)は実施され、市の職員から情報を頂いている。	コロナ禍で市の担当者もメンバーの運営推進会議が開催されていないため、直接会う機会は少ない傾向にある。3か月に1回の入所判定会議や電話での情報提供、相談等は以前と同様に行っている。入居者関連事案を通じ、直接市担当課と協議する等、協力関係が築かれている。今後ともこれらの協議事例を職員間で共有しながら、ケアサービスの向上に活かしていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回委員会あり。身体拘束を必要とする対象者は現在いない。多忙時身体拘束していないか、夜勤帯はどうか、言葉使いはどうか等、委員で確認し 全職員に周知している。皮下出血についても記録に残すようにしている。	法人全体の指針に加え、平成30年に事業所独自の身体拘束適正化のための指針を作成している。2ヵ月ごとの職員会議で、身体拘束や虐待防止、スピーチロックに関する研修を積み重ね、会議の議題としても取り入れるなど、職員全員で研鑽・共有しながら身体拘束の防止に努めている。法人として年3回職員アンケートを実施し、振り返りを行いながら利用者のケアに取り組んでいる。玄関の施錠は防犯のため、夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の気になる言葉使いについて、その場で注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の対象者は現在いない。今後利用する人もあると思うので、しっかり学ぶ必要があると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、介護報酬改定時等 家族に分かりやすい言葉で説明している。転倒リスクについて説明、夜勤者一人体制であることを 常に話している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

## 2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、面会中止している。毎月ななしぐれ通信、本人の状況、訪問診療の結果については家族に書面で説明している。	利用者全員が映っている写真を掲載した「ななしぐれ通信」を毎月発行するとともに、訪問診療の結果や利用者個々の様子等、伝えたい内容を文書にして家族に送付している。電話ばかりではなく、送付した文書の記入欄に家族から意見や要望をいただき、その内容を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で、全体の会議自体が少なくなっているが、申し送り、普段の会話の中で利用者への介護の仕方、提案等傾聴する場面はある。経営改善の3か年計画について職員に意見を求め、実施している。	朝夕の申し送り時やケアプラン会議等の機会を活かし、職員から意見や要望を聞き、口腔体操実施など運営に反映している。経営改善に向けた法人の3か年計画で各種データを数値化し、職員は、これに沿って介護サービス改善の実践に向けた目標を設定し、日々の業務に明確な方向性を意識しながら取り組んでいる。	職員が積極的に提案や意見を話し合える環境下にある。さらなる個々の職員の意見反映と実践に向け、個人面談実施を検討中とのことであり、今後の展開を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の登用試験、資格取得には取り組んでいる。定年延長、再雇用についても努力している。定期的に業務の見直しをし、職場環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は、介護福祉士試験合格1名。研修についてはコロナ禍で、法人内外ともなし。今年度は、岩手県認知症介護基礎研修参加2名、管理者研修参加1名予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、協会活動が全くなかった。必要な時は電話で情報交換した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に事前調査を行い 家族、本人の困っていること 要望を傾聴している。		



令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、施設見学していただいている。自宅での生活の様子を聞いたりして GHでの生活に役立てるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始から1か月ほど 本人の気づきメモを準備し、日勤、夜勤それぞれのあらゆる時間帯の様子を記入し本人のできることやできないことを共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者台帳、ケアプラン等で 確認している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月 通信のほかに 利用者の状況報告し 利用者にとって良いと思われる支援を両者で考えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会中止しているが、家族や知り合いからの電話を取次したり ガラス越しの面会等する場合もあった。	コロナ禍であり、家族や知り合いからの電話とガラス越しの面会となっている。毎日来所する郵便配達員や新聞配達員と声をかけ合い、また、3か月に1回来てくれる理容師も馴染みとなっている。以前は近隣住民が野菜を持ち訪れる等の機会があったので、コロナ禍が終息の折りには、地域住民との関係性の継続を図りながら支援に努めたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格、認知能力を配慮し 座席、ソファの座り位置も配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院の目途が見つからない時は、家族の立場になり今後のことについて いろいろと話をすることもあった。利用が終了してからも ご家族の訪問や電話があり 話をすることもあった。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

## 2 自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で 本人が何を思っているのか、希望されているのか聞き取り 職員間で情報を共有している。	利用者一人一人に寄り添いながら、日々の生活の中で話されたことを把握し、職員間で共有している。毎日の新聞読み聞かせでは、相撲欄等利用者が関心のあることを意識的に選択し、また、定期的に発行される地域広報を一緒に見ながら身近な話題を提供している。理念を念頭に、利用者全員が笑顔で自らの言葉を発するよう、寄り添いながら思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係者から情報を集め把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共にすることで、本人の状態を把握することができる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをすることで課題が見えてくる。最終的に計画作成担当者が、プランをまとめている。	職員は、業務日誌と連絡ノートを確認の上で日々の業務をスタートしている。計画作成担当者は、毎日の申し送り事項と業務日誌、連絡ノートを基にモニタリングを行い、担当者会議の中で個々の利用者担当職員から聞き取った意見や、その職員が記載した評価表を参考に計画を作成している。当初計画の作成や計画の変更に際しては、家族に書面を送り承認を得るとともに、併せて要望や意見を伺いプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は記録されている。ケアプランの実施状況も生活記録に反映されている。			

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

## 2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な受診等あるときは、その日の業務を変えて対応。訪問歯科の対応。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋さんが3ヶ月に一回来てくれている。悪天候から消防通報システムが誤作動したり、スプリンクラー装置の故障から消防出動があったりした。近隣の方々も来ていただき事なきを得た。「火事じゃなくて良かった」と多くの方から言葉を頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に一回八幡平市立病院の先生の訪問診療を受けている。家族にも結果を報告している。	協力医の市立病院で、利用者は年1回の定例の健診受診のほか、月1回の訪問診療を受診している。受診結果は、手紙で家族にもお知らせしている。従前はかかりつけ医を利用していた方も協力医に変更しているが、変更の際は利用者と家族に説明し承認を得ている。管理者は看護師の資格があり、医師の指示を受け注射や採血が出来る等、利用者は居ながらにして適切な治療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいるので 利用者の体調に変化があれば 報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護サマリーの提出 状況報告書の提出をしている。ご家族に持たせたり、病院へ直接持参したり、FAXで報告することもある。		

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルの見直しをした。家族との話し合いで、特養に申し込みするケースが多い。(主治医とは、ターミナルケアについて話し合い、現状はここでは難しいだろうとのコメントがあった)本人や家族の希望を傾聴し 申し送るようにしている。	入居時に利用者及び家族と終末期に向けての話し合いを行い、希望を基に事業所で出来ることを説明し、理解を得た上で意思を確認している。開設後これまで看取りの経験はない。状況が変化した場合には、法人内の特別養護老人ホーム「むらさき苑」に移っていただき、医師の協力を得ながら協力医の病院に入院する等、医療との連携を図りながら支援に努めている。事業所の支援は、利用者や家族にとって安心感と期待感をもって受け止められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年マニュアルの見直しをして、職員会議などで職員に周知するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施し、連絡体制も整えている。地域との協力体制はある。(災害援助協力隊 運営推進委員会)コロナ過で、地域との合同訓練はできなかった。	近くに赤川があるが、市のハザードマップの対象区域にはなっていない。年2回の避難訓練を実施し、うち1回は隣接する同法人内の施設と合同で夜間想定を含む総合訓練としている。有事の際には、地域住民で構成する災害協力隊が駆け付けするなど、地域との協力体制ができています。また法人の事業所が地域の福祉避難所に指定されており、法人としての備蓄のほか、事業所としても1週間分の食糧を蓄えている。	

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大きい声、命令口調にならないよう配慮している。利用者とフレンドリーな関係も良いと思うが、人生の先輩であることを意識している。職員の言葉使いが気になるときはなるべくその場で注意するようにしている。	居室の掃除や食事の際の手伝いなど、利用者自身でできることは利用者の役割として担ってもらっている。トイレ誘導や入浴の時などは、言葉遣いに気を配り丁寧に対応しているが、場面場面で職員同士が客観的に見て注意し合っている。聞こえの良くない人には、耳の傍に行き、声の高さに気を付けながら話しをする等、十分に配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から 自己決定できるよう二者択一の声掛けも必要と思っている。利用者の言葉は否定せず傾聴している。		



令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を確認しながら 無理強いしないよう配慮している。又、その人らしい暮らしができるよう話を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては声掛けしている。3か月に一回散髪している。長寿を祝う会では、お化粧しおしゃれして写真を撮っている。口紅を差すことで女性らしさが出てくる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭き、お茶の準備、食器拭きをしてもらっている。食事前にメニューを紹介し、食べる楽しみを感じてもらっている。畑やご近所さんのおすそ分けで旬を味わっている。	法人の管理栄養士が献立をたて、朝食と夕食は「むらさき苑」の委託業者が調理した食事を提供し、昼食は隣接するデイサービスから提供を受け、ご飯とみそ汁については事業所で作っている。食事前のメニュー紹介のほか、希望食の提供、みずき団子や手作りおやつ作り、時には業者による回転寿司の提供と、食事が喜ばれ楽しみなものになるよう工夫している。利用者はテーブル拭き、食器拭きに携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分について毎回記録し 一日の中で摂取量が少ないときは職員間で申し送りしている。一人一人に合わせた食料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し、口腔衛生に努めている。訪問診療は、岡田歯科になっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握し、さりげないトイレ誘導している。利用者の様子やしぐさを見てトイレ誘導するときもある。	利用者一人一人のパターンを把握し、さりげない誘導と利用者の様子や仕草を見てトイレ誘導をしている。出来るだけ布パンツの使用にし、利用者の心の負担を軽くし、少なくとも現在のレベルを維持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックしている。主治医に相談しながら下剤調整している。便秘継続している方へは水分運動を促している。		

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日拒否あれば翌日対応 一人一人ゆっくり入浴している。職員と1対1なので ゆっくり会話をする場合もある。	週2回の入浴は、身体の傷や異常の有無を観察する機会にもしている。浴槽はひのき風呂であることから匂いも良く、入浴剤は使用していない。静かに入りたいとの要望もあり、一人一人ゆっくりと入浴を楽しんでいる。入浴を望まない利用者には、翌日の入浴を勧める等柔軟な対応を心掛け、職員のさりげない誘導で入浴に導くよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが崩れないよう 日中は活動していただいている。夜はぐっすり睡眠をとってもらえるよう 各居室ごとにエアコンで室温調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を回覧し職員に周知している。内服確認は必ずしている。薬の変更あれば、本人の体調等確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で、外出できない状態であるが 利用者が楽しめるようなことを職員が考え 利用者の笑顔を引き出している。手作りおやつは好評である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出困難な状況 天気の良い日は、ごみ捨て散歩 外気浴している。ドライブすることもあったが外食はせず 景色を眺めるだけだった。	コロナ禍のため外出が困難なものの、天気の良い日はごみ捨てに行きながら事業所の敷地内を散歩したり、当番で花壇の水遣りを行うなど、工夫しながら外気浴の機会を作っている。お花見ドライブで四十四ダムに行き車窓から桜を見たり、「道の駅にしね」のしだれ桜を見に出かけたりしている。毎日水分補給を5回まめに行っており、外出時にも特に留意している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の預り金は、金庫に保管している。コロナ禍で、外出し買い物することが困難になっている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

## 2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来れば 取次している。手紙は来ても 返事を書くことは困難になっている。通信などを返送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁やホールの壁に季節感のある飾りつけをしている。	利用者の集うホールには天窓があり、開放感のある造りになっている。パネルヒーターとエアコンが設置され、室温は適温に保たれている。壁面には利用者の作った「ぬり絵」や「ちぎり絵」が飾られ、季節感を感じ取れるよう工夫している。利用者は小上がりやソファで思い思いに寛ぎ、居心地よく過ごせる雰囲気が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ 置の小上がりは 自由に使ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの 馴染みのもの 思い出のあるものを居室に置いている利用者あり。	洗面台、ベッド、吊り戸棚、冷暖房用のエアコンが備え付けられ、家族写真、布団、観葉植物、タンス、化粧品などを持ち込んでいる。入居時、家族と一緒に部屋を見て、使い慣れたものや馴染んだ物を選び、居心地よく過ごせるよう工夫している。事業所のアイディアで、入居時から職員が撮った写真で利用者ごとの個人アルバムを作成しており、思い出として残せるように利用者自身のコメントを記入している。手に取って思い出に浸っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりあり 安全に移動している。居室の表札トイレの場所もわかりやすいよう工夫している。ベットの家庭用だが 立ち上がりが楽になるようベット柵を補助的に設置している。		